

新年、明けましておめでとうございます。主の2026年の最初の主日礼拝を皆さまとともにおささげできます恵みに感謝いたします。皆さんはどうのように、新しい年を迎えられたでしょうか。新しく始まったこの年も、神さまの豊かな祝福が皆さまの上にありますように、心からお祈りしております。今朝は今年の年間聖句をともに覚えて、みことばに聞きたいと思います。今年はヨハネの福音書20章19節の後半を年間の聖句として選びました。

「平安があなたがたにあるように。」

改めて、先ほど読んでいただきましたがこの19節の全体をお読みします。

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」

このみことばは、イエスさまが十字架で死に復活された後の出来事を記しています。復活の出来事が起こった日曜日の夕方、弟子たちのところに突然現れたイエスさまが言われた「平安があなたがたにあるように」というみことば。これはギリシャ語では「エイレネー」ヘブライ語では「シャローム」という言葉です。弟子たちはこの時、イエスさまが十字架で亡くなってしまい、さらに自分たちの身にも危険が及ぶことを恐れて、戸に鍵をかけて隠れていました。そんな弟子たちのところにイエスさまは現れ「平安があなたがたにあるように」「シャローム！」と語ってくださいました。不安や恐怖に支配される私たちに真の平安を与えてくださる復活の主イエスさまのお姿を聖書は教えるのです。

この箇所から、私たちはイエスさまが与えてくださる平安の中を生きていくこと、そしてこの平安をこの教会のうちに、またこの地域にそして世界に分かち合っていく。そのようなことをともに考えていきたいと願っています。

2024年、教会設立40周年を迎えた年に私たち八千代聖書教会は教会のビジョンを制定しました。

八千代聖書教会ビジョン

～聖書を土台とし、キリストの「シャローム」（平安・平和）を分かち合う教会～

1. あらゆる違いを超えて、全ての人がともに神を礼拝する教会（礼拝）
2. 互いに祈り合い支え合い、ともに成長する教会（交わり・教育・奉仕）
3. 地域に根差し地域に仕え、福音を宣べ伝える教会（宣教）

昨年は「聖書を土台とし」という言葉から、詩篇119篇105節の「あなたのみことばは私の足のともしび 私の道の光です」というみことばを年間の聖句としました。今年はそれに続く、キリストのシャロームを分かち合う教会という言葉を元に、年間の聖句を考えました。キリストのシャロームを味わい、分かち合う。このことを今年はともに考え目指して、歩みを進めていきましょう。

神さまとの平和

イエスさまが与えてくださるシャローム。それはまず、神さまとの関係における平和、神さまとのシャロームです。私たちのためこの地にお生まれくださったイエスさまは、その十字架を通して私たちに神さまとの和解、神さまとのシャロームを与えてくださいました。昨年までともに読んでいましたエペソ人への手紙2章14-17節にはこうありました。

実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、ご自分の肉において、隔ての壁である敵意を打ち壊し、様々な規定から成る戒めの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、この二つをご自分において新しい一人の人に造り上げて平和を実現し、

二つのものを一つのからだとして、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました。また、キリストは来て、遠くにいたあなたがたに平和を、また近くにいた人々にも平和を、福音として伝えられました。

イエスさまは十字架によって、私たちと神さまとの間を和解させてくださいました。罪によって神さまと断絶状態にあった私たちが、イエスさまの十字架により罪赦され、真の平和の関係に入れられた。そうみことばは教えています。神さまの子どもとして、神さまに愛され神さまを愛するまことに幸いな歩みに私たちはイエスさまを通して招かれ導かれています。神さまとの平和、神さまとのシャロームをイエスさまは与えてくださったのです。

私たちが新しい年の始めに覚えたいこと。それはまず、私たちが神さまとの平和、イエスさまにあるシャロームに生かされているのだということです。平安があなたがたに。これはまず他でもない私たちに、この私に向けられています。イエスさまにある平安、神さまの愛のうちにある喜び感謝を私たちはまず大事なこととしてこの一年を過ごしてまいりたいと思います。私たちの歩みにはいろいろなことがあります。不安や恐れを覚えることや、うまくいかない現実に苦しみ、悲しみや痛みを経験することもある。しかし私たちには、何によっても変わらない、確かな平安が与

えられていること。神さまに愛されているという真のシャローム、十字架によって罪赦され神の子とされている恵みを忘れずにいたいのです。何があってもどんな時も決して変わることのない神さまの大きな愛の中、神さまとの平和の関係に生かされていることに、私たちはいつも希望と喜びを見出す者とされたいと思います。

シャロームを教会に

そして神さまとの平和のうちに入れられた私たちは、他者との間にも平和を作るべく召されている。そのことも聖書が教えているとても大切なことです。先ほど読みましたエペソ2章で言われている「二つのもの」というのは、ユダヤ人と異邦人のことでした。イエスさまによって二つのもの、分かり合えなかったもの同士が一つとされていく。それが福音の恵みです。私たちイエスさまにある者同士が、互いに愛し合い受け入れ合い恵みを分かち合って、ともに生きていく。そのような八千代聖書教会と今年もされていきたいと願っています。イエスさまが与えてくださったシャロームがこの教会の中に、私たちのうちに満ちていくように。私たちの交わりが互いを思いやり労わり合い、また赦し合って真のシャロームを表すものとなっていくことを願い祈り励む者とされたいのです。

私たち教会には、いろいろなことが起きます。時に不満が募ることや、それゆえに諍いが起きたり、不和が生じてしまったりすることがある。人間同士、罪人同士ですから、そういったことはどうしても避けられない。そんな現実があります。しかし私たちは、いつもイエスさまのシャロームをいただいている者であること。神さまに愛され赦されている者であることを覚えていたいのです。神さまは私たちを、私を愛し赦してくださっている。私のためにイエスさまは十字架で命を捨ててくださった。イエスさまがいのちをかけて与えてくださった神さまとの平和。イエスさまにある平安に生かされている者として、赦され愛されている者として私たちは歩んでまいりたい。互いの弱さや欠け、過ちに心痛めることがあっても、イエスさまがそうしてくださったように互いに赦し合い受け入れ合って生きる者でありたいのです。

今年も私たちは互いに交わること、恵みを分かち合うことを大事にしましょう。毎週の祈り会や月毎の家庭集会、礼拝後のシェアリングタイム、食事の時。そういった機会を通して互いに知り合い交わりを深め合い、祈り合っていく。そんな教会としての歩みを今年もともに進めさせていただきたいと願います。そして何よりもともに神さまを礼拝することを通してイエスさまにあるシャロームを確認し、「シャローム」と言葉を交わし合う。口先だけの言葉ではなく心からの願いとして、平安があなたにありますように。そう心から語り合い祈り合っていく。そんな交わりをともに続けさせていただきたいのです。

シャロームを世界に

そして私たちはこの平安をこの地域に、私たちの周りに、そして世界に伝え広げる者とされたい。そのような八千代聖書教会として今年も歩みを進めたいと願っています。今日の箇所の直後に、イエスさまはこう言われました。ヨハネ20章21節。

イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。」

イエスさまは平安があなたがたにあるように。シャロームと語られた後、あなたがたを遣わしますと弟子たちに言われました。ご自身の平安を約束された後、イエスさまは弟子たちを私たちを遣わしてくださる。イエスさまにある平安をもってそれぞれの地に遣わされていくこと。出ていくことをみことばは私たちに教えているのです。私たち八千代聖書教会は神さまの恵みを受け、交わりを大事にし、そして福音を携えて外に出て行く。そのような教会として今年も歩ませていただきたいと願っています。

今朝の招きの言葉では民数記6章23-26節のみことばを読んでいただきました。

「アロンとその子らに告げよ。『あなたがたはイスラエルの子らに言って、彼らをこのように祝福しなさい。主があなたを祝福し、あなたを守られますように。』

主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。

主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。』

ここは神さまの祝福がありますようにというみことばであり、礼拝の祝福の祈りなどとして用いられることが多いことばです。私も個人的にとても好きなみことばでもあり、色紙などにメッセージを書く際にはこのみことばを引用することもあります。改めてこの御言葉に目を向けてみると、23節で神さまがアロンに対してイスラエルの子らをこのように祝福しなさい、と命じておられるということに気づきます。「主があなたを祝福し、あなたを守られますように。主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。」 こう言って、人々を祝福しなさい。神さまの祝福があるように、人々のため祈り祝福を宣言する。そ

のようなことを神さまはモーセを通してアロンに命じられたのだということです。アロンというのはこの時イスラエルの祭司として立てられた人物ですが、このみことばの命令は私たちにも命じられていることです。私たちもまた、主の祝福と恵み、そして平安を祈る者としてこの地に生かされている。イエスさまにあるシャロームを伝え宣言していく。そのような存在として私たち八千代聖書教会はこの地に置かれているのだということを私たちは覚えていたいと思います。

昨年も多くの方との出会いが与えられ、少なからぬ方々がこの会堂に足を運んでくださいました。アウトリーチ委員会のお茶会やりとりらむ、夏の子ども会やクリスマス会、家庭集会などを通して、教会とのつながりを持たれた方がいらっしゃいます。近所の方で教会を訪ねて来てくださった方もありました。私たち教会を通してイエスさまの平安が人々の間にこの地域に広がって行くことを心から願いつつ、私たちはますます地域に根差し地域に仕える教会とならせていただきたいと思います。すでにこの礼拝に連なっておられる方々も含めて、イエスさまを信じこのお方にいるシャロームの中を生きる方々がますます起こされて行くように。救われるたましいが起こされるようにと心から祈りつつ宣教に励む私たちとさせていただきましょう。

すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」

今年もイエスさまがくださった平安、シャロームに感謝し味わい、その喜びの中を生きる私たちとさせていただきましょう。この平安を教会に、そしてこの地域にこの世界に伝え広げる存在として、ともに歩んでいきたいと思います。

お祈りをいたします。「天のお父さま。主の2026年も私たちを愛し、豊かな恵みをもって臨んでいてくださること、あなたとの真の平和、シャロームの中私たちを生かしていくくださることを感謝いたします。この1年もあなたの恵みに心から感謝しあなたを礼拝して生きる私たちとどうかならせてください。イエスさまが与えてくださった平安にいつも目を留め生きる私たちとならせてくださいますように。このシャロームを教会の中に、この地域に世界に伝え広げる私たちとどうかならせてください。この年も、八千代聖書教会に連なる一人ひとりに主の恵みと平安が豊かにありますように。みことばに感謝して、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」